

港湾振興便り



2013. 6
第74号

*:

目 次

*:

1 ポートエッセイ 「港湾協会総会の開催地 敦賀から見える日本の姿」
～日本港湾振興団体連合会会長(新潟市長) 篠田 昭～

2 トピック

●姫川港開港40周年記念式典を開催されました
(糸魚川市 商工農林水産課 企業支援室)

●きれいな海を守る海洋環境船「クリーンはりま」一般公開
(近畿地方整備局 神戸港湾事務所)

●サン・プリンセス歓迎おもてなしくリーン作戦
(近畿地方整備局 舞鶴港湾事務所)

●「瀬戸内・海の路ネットワーク推進協議会」平成25年度総会開催について(姫路市)
(瀬戸内・海の路ネットワーク推進協議会事務局)

●「さよなら!ふじ丸」高松港へ最終寄港しました!
(香川県 観光交流局 にぎわい推進課)

●清掃兼油回収船「がんりゅう」壱岐で初の一般公開
(九州地方整備局 関門航路事務所)

3 お知らせ

*:

1 ポートエッセイ 「港湾協会総会の開催地 敦賀から見える日本の姿」

～日本港湾振興団体連合会会長(新潟市長) 篠田 昭～

*:

先月22日、福井県敦賀市で日本港湾協会総会が開かれた。河瀬市長からは陣頭指揮で総会を見事に運営いただいた。懇親会にもお越しいただいた西川・福井県知事と合わせ、協会の日本海北陸支部長として心からの感謝を申し上げる。

敦賀の街並みはアーケードが長い区間で整備され、まんがをモチーフにしたアートなどもあって、人口規模に比べて大変に立派に整えられ、活気もあるように感じた。

しかし、総会が開かれた時期は福井県や敦賀市にとって大変に大きい問題が議論され、方向付けが出されようとしていた。原子力規制委員会が敦賀にある高速増殖炉「もんじゅ」に事実上の運転禁止を命じ、敦賀原発2号機についても原子炉下に活断層があるとの判断を示した。

敦賀2号機の運転再開はかなり厳しい状況となったわけで、原発との共存を目指してきた地域にとっては、まさに死活問題である。

「原発の方向性が見通せないと、何千人規模で作業従事者が減ってしまう」と地域の多くの方が不安を語っていた。

そんな状況を反映して総会や懇親会では、「敦賀の活性化のために、まちに繰り出しましょう」との発言が何人かからあった。650人規模の集いは、敦賀のにぎわい創出に寄与したことは間違いない。とは言っても、一過性の盛り上がりには限界がある。原子力をどうするのか—重い課題が地域に突きつけられている。

同じ日本海側の新潟も他人事ではない。日本最大の原発基地である東電の柏崎・刈羽原発は7基すべてが運転停止したままだ。

運転のリスクは地元が負う一方で、電源3法などの交付金で地域は支えられてきた。今後、この関係をどうするのか、方向は見えないままだ。

気比の松原など、美しい海岸線が敦賀には広がっていた。日本海を眺めながら、「今後のエネルギー政策はいかにあるべきか」を考えざるをえない時期となった。答えはまだ出ない。

*:

2 トピック

*:

●姫川港開港40周年記念式典を開催されました

(糸魚川市 商工農林水産課 企業支援室)



米田徹糸魚川市長の主催者挨拶

平成25年5月27日(月)、新潟県糸魚川市「ビーチホールまがたま」において、姫川港開港40周年記念式典が開催されました。姫川港は新潟県の西南端に位置し、一級河川姫川の河口付近に隣接する堀込港湾です。昭和48年に開港宣言をして以来、全国の地方港湾の中でも屈指の総取扱貨物量で年間400万トン以上を堅持しています。近年では、平成15年にリサイクルポートの指定を受け、

平成18年にポート・オブ・ザ・イヤー2005

を受賞しました。平成21年には、関税法上の開港、平成22年に植物防疫輸入港に指定され国際物流港としての機能強化も図られています。

記念式典では、記念事業実行委員長 米田徹糸魚川市長の主催者挨拶で開式し、花角英世新潟県副知事、松原裕国土交通省北陸地方整備局次長はじめ来賓の祝辞がありました。祝電披露、港湾功労者表彰式の後、取扱貨物量の増大に対応して新たに位置付けられた港湾計画の早期完成、姫川港の今後の一層の発展を出席者一同が祈念して閉会しました。

続いて、～姫川港から世界へ！ジオパークのまち糸魚川～をテーマに、糸魚川市出身でジオパーク大使にも就任しているタレントの川合俊一氏と、フリーキャスターの伊藤聡子氏によるトークショーが同会場で行われました。日本国内ばかりでなく外国からも船舶が入港し、これからますます世界での活躍が期待されている姫川港、ジオパークのまち糸魚川における、みなとまちの魅力と地域経済活性化へのヒントがふんだんに語られました。一般の市民も含めた来場者は、体験談を交えての対談に、頷いたり、声を出して共感を示しながら熱心に耳を傾けていました。



夕日ヶ丘公園展望台から望む「姫川港」

なお、姫川港には、8月2日(金)から6日(火)まで国内最大級の帆船である航海訓練船「日本丸」が、開港40周年を記念して寄港します。期間中は様々なイベントを予定していますので、ぜひおでかけください。詳細は、随時糸魚川市ホームページ(<http://www.city.itoigawa.lg.jp/>)でお知らせいたします。

●きれいな海を守る海洋環境船「クリーンはりま」一般公開

(近畿地方整備局 神戸港湾事務所)

今年で第10回目を迎える『KOBEMINATOの絵大賞』は、NPO法人神戸グランドアンカーが主催の「神戸のみなとを元気にする」名物イベントです。

平成25年5月25日の写生大会では神戸市内外の老若男女およそ300人が参加し、船やポートタワーなど大賞を目指してカー杯に描かれました。

同会場では写生大会にあわせて、今年4月に就航したばかりの海面清掃兼油回収船「クリーンはりま」の船内を一般向けに初めて公開しました。

海の環境のためにがんばってほしいと命名された同船「クリーンはりま」の船内では、当事務所職員より「航行船舶の安全や海洋環境を守る大切さ」についてわかりやすく説明し、見学する親子連れらは最新鋭の機器を備えた操舵室やゴミ回収の仕組みなどを見て「操舵室が思ったより広く、機器もハイテク」と感心するなど、見学会をとおして多くの皆様に海洋環境整備事業をPRしました。

将来、子どもたちの描く神戸のみなとが青い海である事を願い、これからも海洋環境の総合的な保全と改善に取り組んでいきます。



船内公開の様子



本船の乗組員たち



「クリーンはりま」全景



目指すは大賞！ ～写生大会の様子～

●「サン・プリンセス歓迎おもてなしクリーン作戦」～舞鶴で楽しいひとときを！～

(近畿地方整備局 舞鶴港湾事務所)

平成25年5月15日に舞鶴港で初めての外航クルーズ客船「サン・プリンセス」(77,000トン、全長261m、乗客定員2,022人)が寄港するにあたり、街を綺麗にすることで、お越し頂く方々に楽しいひとときを過ごして頂くことを目的に、5月11日(土)舞鶴商工振興会が世話人となって「サン・プリンセス歓迎おもてなしクリーン作戦」が実施されました。当日はあいにくの雨ではありませんでしたが、約200名(当事務所からは13名が参加)が約1時間半に渡って西舞鶴市街地一帯の清掃活動を行いました。



クリーン作戦の実施

5月15日寄港した「サン・プリンセス」

舞鶴港には今後も「サン・プリンセス」が7月8日、「コスタ・ビクトリア」(75,166トン、全長252.9m、乗客定員2,394人)が6月7日及び9月11日に、更に平成26年には舞鶴港で過去最大のクルーズ客船となる「ダイヤモンド・プリンセス」(116,000トン、全長290.9m、乗客定員2,670人)が4月から9月にかけて計5回寄港する予定となっています。「みなと」から地元京都、舞鶴のより一層の賑わい、発展に繋がって行くことを期待しております。

【クリーン作戦】 http://www.pa.kkr.mlit.go.jp/maizuruport/topics/2013_5_11.html

【サン・プリンセス】 http://www.pa.kkr.mlit.go.jp/maizuruport/topics/2013_5_15.html

●「瀬戸内・海の路ネットワーク推進協議会」平成25年度総会開催について(姫路市)

(瀬戸内・海の路ネットワーク推進協議会事務局)

5月31日(金)兵庫県姫路市において、「瀬戸内・海の路ネットワーク推進協議会」平成25年度総会を開催しました。

同協議会は、瀬戸内海沿岸市町村の相互連携により防災ネットワーク機能の強化を視野に入れた瀬戸内・海の路の利用振興、発展を図ることを目的として平成3年に設立し、今年で22年になりました。総会には、瀬戸内海沿岸各地から21市町の首長と会員である各自自治体及び地方整備局等の担当者約140名が参加して開催されました。

総会の開会にあたり、協議会会長である入山欣郎 大竹市長より開会の挨拶をいただき、第一部では、昨年度の活動実績の報告、今年度の事業計画など各議案について審議・決議され、最後に次期開催地を愛媛県松山市とすることが了承されました。

第二部では、「瀬戸内をクルーズで世界の海へ！」と題して、神戸経済同友会特別会員である上

川庄二郎氏よりご講演をいただきました。

第三部では、第7回瀬戸内海首長サミットが22市町の首長と大臣官房技術参事官及び地方整備局幹部が一堂に会して開催されました。サミットは、「瀬戸内・海の路の利用振興・防災ネットワーク機能の強化に向けて」をテーマに、平時の利用振興や災害時の支援内容を実現するための協力体制等について活発な議論が行われました。



入山欣郎 大竹市長挨拶

●「さよなら！ふじ丸」高松港へ最終寄港しました！

(香川県 観光交流局 にぎわい推進課)

5月30日(木)、クルーズ客船「ふじ丸」が、「ふじ丸で航く瀬戸内海島めぐり」で高松港へ寄港しました。「ふじ丸」は、これまで25年間に、地球20周分の航海を続け、約50万人に快適なクルーズの旅を与えてくれました。7月1日のラストクルーズで引退が決定していることから、高松港の寄港は、今回が最終となりました。これまで、サンポート高松には、21回も寄港をしていただき、多くの思い出と感動をもたらしていただいたことに深く感謝いたしております。

当日は、入港歓迎セレモニーの後、岸壁において「さぬきうどん」の接待や県産品の物産展を行いました。また、一般県民を対象とした船内見学会には、約500人の応募があり、香川県でも多くの方が「ふじ丸」の寄港を楽しみに待っていました。出港イベントでは、地元園児が船に「ありがとう!」、乗客の皆さまに「また、高松港に来てね!」と大声で伝えるとともに、園児全員による鼓笛を披露しました。出港時には、色とりどりのテープを投げ、「ふじ丸」との別れを惜しみました。たった半日でしたが、多くの方の心に残る時間となったことでしょう。ありがとうふじ丸! どうかお元気で!!



記念品を手渡す香川県知事



地元園児による鼓笛

●清掃兼油回収船「がんにりゅう」壱岐で初の一般公開

(九州地方整備局 関門航路事務所)

「海のお掃除屋さん」と呼ばれている関門航路事務所所属の清掃兼油回収船「がんにりゅう」は、5月19日(日)に長崎県壱岐市郷ノ浦港で実施された「長崎県総合防災訓練」に参加後、芦辺港において一般公開を行いました。当日は雨まじりのあいにくの天気でしたが、137名の方が見学に訪れました。

壱岐は四方を海に囲まれ、住民の方は海洋環境に大変関心が高く、受付に設置したパネルを丹念に読み、船内見学でもゴミ回収機の性能や回収実績に関する質問が多く、皆さん熱心に見学されていました。



清掃兼油回収船「がんにりゅう」



一般公開の様子

